

入試問題（書道実技）出題のねらい ～技能特待生選抜（書道）～

○漢字臨書（篆書・隸書・楷書・行草書）の各書体を出題することにより、高等学校芸術科書道の授業内で培われた基本的技法・書法の習熟度と作品を仕上げる練度を確認する内容となっている。線の表現力や練度は、一朝一夕に出来上がるものではない。毎日の練習量や練習内容の質が顕著に出るものである。また選択にすることで、受験生の得意分野を看取できることから、このような出題形式とした。なお、今回も試みとして、清時代の篆書を出題した。

○仮名臨書を出題することにより、書に対する学習が漢字練習に偏重せず、学習指導要領に則り、広く学習されているか、そして仮名の基本的技法の習熟度と練度を確認する内容となっている。なお、昨今の高校現場での傾向から、今回も「針切」を新しいで試みで出題した。

○創作においては、受験者の技術・表現力・作品をまとめる力（経験値）を確認する内容となっている。特に出題内容を「漢字かな交じり書」に限定しているため、中学校国語科書写からの書法的移行と、現段階の「漢字かな交じり書」の習熟度を確認する内容となっている。